

EPILOGUE 養蚕教師と地域

この展示会では、時代を代表する花形職業であった「養蚕教師」の残した資料を使って地域の産業史、民俗の一端を探ろうと試みました。地域差にスポットをあてることが「民俗」を探るアプローチの一つと考えられます。「養蚕教師」の仕事は、それとは逆に最新の技術を普及させてまわる、つまり地域を均一化するものともいえるかもしれません。

しかし、時代遅れといわれた「支那種」がどうして神奈川で普及したのか、ここから改良種「相模」が作られたのか。当時の産業史を語る資料からは地域の特性(=民俗的なもの)もみえてきます。今回は小林升さんの資料のお披露目という面がありましたが、この資料を地域、民俗を考える手立てにすることに十分可能性があります。そうなれば、養蚕に対する興味は、より一層深まることでしょう。

最後に、この展示会で参考とした文献をご紹介します。

厚木市教育委員会『厚木の民俗2』1982

厚木市教育委員会『星野日記 明治19~30年(農業日誌)』1982

厚木市史編纂委員会編『厚木産業史話』1976

猪坂直一・可児良夫改訂『蚕桑古典集成』1928 蚕桑古典集成刊行会

日本学士院編『明治前日本蚕業技術史』1960

木村九蔵(中村高樹筆記)『木村九蔵養蚕伝習場 春蚕飼育日表』1894

飯田孝「明治中期における養蚕業の変遷」『かながわ風土記 84』1984

井上善治郎「養蚕技術の展開と蚕書」『日本農書全書35』1981

井上善治郎「ある知事の晩年 吉田清英伝」『一すじの糸』1993

奥原国雄『本邦蚕書に関する研究』1973

岡谷典子「川崎の養蚕と信仰」『川崎市民ミュージアム紀要 4』1991

川辺定男「近世後期北相地域における養蚕経営の展開」『六浦古文化26』1979

座間美都治「「養蚕要略」についての考察」『近世神奈川の地域的展開』有隣堂、1986

色川大吉『自由民権』岩波書店、1981

大畑哲編『神奈川の自由民権』勁草書房、1984

愛甲郡教育会編『愛甲郡制誌』1925(1987、千秋社復刻)

農商務省農務局編集『桑の種類に関する調査』1923

奥村正二『小判・生糸・和鉄 - 続江戸時代技術史 - 』岩波書店、1973

上垣守国他「養蚕秘略、蚕飼絹篩大成、養当計秘訣」『日本農書全集35』農山漁村文化協会、1982

東京農工大学附属図書館『「浮世絵にみる蚕織まにゆある」かみこやしなひ草』2002

相模原市教育委員会『相模原の養蚕業と上溝市場』1987

相模原市教育委員会『相模原の製糸業』1988

【養蚕関連展示会】

東京農工大学附属繊維博物館『蚕織錦絵展』1980

厚木市教育委員会『養蚕資料展 飯田孝氏の資料から錦絵を中心に 』1989

町田市立博物館『多摩の民俗 養蚕信仰』1991

宮代町郷土資料館『養蚕錦絵の世界』1997

厚木市文化財協会『文化財展 暮らしの錦絵』1998

相模原市立博物館『描かれた農耕の世界』1999

町田市立博物館『養蚕機織図』2002

厚木市郷土資料館『養蚕書と出版文化 養蚕文化はどう伝わったのか 』2006